

# 八千代オイコス かわら版

第3号

平成 19 年 1 月 1 日発行  
NPO 法人八千代オイコス  
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>

## 年頭のご挨拶

代表理事 加藤 賢三

明けましておめでとうございます。昨年は日本の内閣総理大臣も代わり、教育基本法の改正も行われ、本年は新しいうねりがあるのではないかと予想されます。八千代市においても、豊田市長の再選とともに、新しい市議が多数加わり、八千代のまちづくりも、多くの課題を抱えて正念場を迎えようとしています。

一方、千葉県においては、「千葉県環境学習基本計画」や「千葉県環境基本法」の見直しなど環境に関するタウンミーティングが市民参加型で矢継ぎ早に行われました。今年はその継続として、市民が関わる部分の重みが増してきています。

昨年末に行われた、『第2回グラウンドワークによるまちづくりフォーラム』では、街をよくするのは誰でもない自分達なのだという認識を参加者

と共有することができました。

本フォーラムにおいて抽出された課題については、今後も実行委員会で具体的な議論を進めていくことが決まり、誠に喜ばしい限りです。

八千代オイコスでは、今年は設立5周年の記念の時にありますので、6月あたりに活動紹介を兼ねた行事を予定しています。昨年に引き続き、印旛沼の再生につながる「川の学校」は7月～8月に行います。八千代オイコスでは、平成15年7月以来、市とアダプト制度に基づいて、花輪川の清掃美化活動を行っています。また、新たな試みとして、18年度以降は、千葉県との間に桑納川の一部において、(仮)印旛沼連携アダプトプログラムを行うことになりました。今年もよろしく願いいたします。

## ～～花輪川から～～

### 印旛沼あっぷモデル事業 2006 中間報告会

印旛沼浄化に向けて4市(白井・船橋・佐倉・八千代)で11の市民団体が18年度の委託事業を展開しています。その中間報告会が11月18日に千葉工業大学で開催されました。当会の花輪川プロジェクトもあっぷ事業の一つとして採択され、生物が棲める川作りの活動を展開してきました。石を入れた所にはトウヨシノボリの姿が見られ、水草のヤナギモはあちらこちらに繁茂していること、粗朶への取り組みなどを報告しました。参加者からは粗朶についての質問などがありました。あっぷ事業は18年度で終了しますが今後どのように展開していくか課題です。(桑波田)



### やちよの川をきれいにしよう!

人が集い共生する川作りを目指す八千代市の親水拠点の整備計画の一環として花輪川の清掃活動と水生生物による水質調査が10月11日(水)花輪橋から桑納川落ち口で行われました。吉橋工業団地、地域自治体、環境保全団体、環境モニターの方など約80名が参加しました。

千葉県中央博物館の林紀男氏から、生物からみた花輪川はまだきれいではないが水草が多いことは生物にとっても良いことだと評価して頂きました。花輪川をきれいにすることが印旛沼の浄化に役に立ち、この活動が他の川にも広がって欲しいと期待します。(桑波田)



## 第2回《グラウンドワークによるまちづくりフォーラム》開催

11月19日(日)、八千代市農業研修センターにおいて、市民活動諸団体による実行委員会(委員長加藤賢三)主催、千葉県と八千代市の後援のもと、当該フォーラムが開催されました。市民活動団体(22)、八千代市職員(13)、一般の方を含め54名の参加者がありました。佐藤としえさんの司会、進行にて、先ず実行委員長と豊田市長の挨拶があり、午前中に3つの分科会、午後には各分科会まとめの報告がありました。つづいて渡辺豊博氏による基調講演、最後のまとめとして「車座トーク」を行ない活発な意見、提案等がありました。

### (1) 渡辺豊博先生基調講演要旨

講師の渡辺豊博先生には基調講演として「新たな人的ネットワークづくり」を演題として熱く語って頂きました。

「渡辺先生の話をお聞きしたいから」と参加した人も多く、豊富な活動を通じた経験から裏づけされた話に会場の一同笑いあり、感心しきりの内容に吸い込まれました。

渡辺先生が手がけてこられた「富士山の景観維持と観光客が落とすゴミ問題」の対応「三島市に発する源兵衛川復活の取り組み」が苦勞の末に自然回復を果たすまでのアプローチ、そして長い時間を掛けて取り組むには先ず一番に「人」であること<こうして欲しい><こうあるべき>と行政にお願いしても望み薄い。

「まちは誰のものか」を考え残すべきものを市民の知恵で総合的、包括的に考え提案す



る事が「人」の議論で生れる。

そして行政を道具として考えることとする。

更に「市民」、「企業」、「行政」と議論をつなげる事が重要で、議論したままでは世間話と一緒にだよと言われる。

第1回フォーラムで先生は<八千代市の街の強さ、活動の潜在性、発展性を感じた。この街には里山や谷津田、新川など財産は沢山あり、やるべき事は山の様にある>とされました。

今後の活動に「商工会議所」や「農協」等の他の団体にも呼びかけることにより新たなネット

ワークに重みが出て来ると・・・

4年半が停滞の期間でなかったことをこれからの「まちづくりのテーマ」を策定しスピードをもって取り組んで行かなければと思います。(川瀬)

### (2) 分科会報告

各分科会では開始に当り、発言についてのグラドルールとして「人の話を良く聞く、個人攻撃はしない批判ではなく建設的な意見」を確認した上、自己紹介を皮切りにディスカッションが始まりました。

第一分科会は「文化、人づくり、食育」について15名の参加者でした。まとめとしては

\* 人づくりは子育てが第一、家庭、地域、行政が一緒になり実行していく。

\* 学校給食は野菜、米、酪農を営む農家が沢山あり、100%八千代産で食育を進めよう。

\* サポートセンターはハードの提供だけでなく、市民の活用と行政との協働の場にする。

第二分科会は「環境」について 22 名の参加者でした。まとめとしては

- \* 自慢できる里山作り、八千代が素晴らしいまちである事を子どもたちに伝えていきたい。
- \* 新川をシンボルゾーンとして環境保全、ゴミ対策、水質問題を考える。千本桜、お花畑を観光スポットとして PR 等活動の幅を広げる。
- \* バイオトイレの設置も計画したい。

第三分科会は「福祉、健康」について 7 名の参加者でした。まとめとしては

- \* 福祉、健康面での市の指針が欲しい、又、市民、行政、企業で地域医療を考える仕組み作りの委員会を作りたい。
- \* 市役所の窓口を一本化しワンストップサービスを望みたい。

### (3) 車座トーク

最後のまとめの「車座トーク」は全員のディスカッションが活発に行われました。要約しますと

\* 行政指導のタウンミーティングではなく、市民主導で議論を積み重ねていく場を持った事の意義は大きい。今後も続けていく事が大事である。

\* 健康、福祉面で総合病院が市民の為になるよう検証していく委員会の設置を八千代市に働きかけていきたい。

\* 市内のシンボルゾーンとしての新川を中心にまちづくりをしていきたい。

\* ゴミの問題も大切であり委員会を作っていくたい。

\* 行政に届く質問、相談についてはたらい回しではなく窓口を一本化し、ワンストップサービスを願いたい（県でもワンストップサービスに取り組んでいるとの発言もあった）

\* 行政と対峙ではなく市民の持ち味を活かして市民主導の企画を立ててはどうか。

◆ 渡辺先生よりアドバイスとまとめがありました。

川をどうしたいのか、5～10年の年次アクションプログラムの策定 - 問題解決への議論(専門委員会の設置) - 新川 21 世紀プランを作成 - 行政各部署を回りチェック(河川法、農地法、水利権等) - プランの練り直し(計画の信頼アップ) - 資金計画(スポンサーを探す) - プロジェクトの開始、と具体的な指摘がありました。

\* テーマとしては、1) サポートセンターの機能 2) 地域デビュー 3) 病院、医療問題 4) 新川 - バイオトイレなどです。今後これらの対策委員会を作り、出来れば商工会議所、農協等企業も参加して利害関係の調整が成功すれば皆が納得します。行政の力も借りますが実行は市民主導です。上記テーマを中心に具体的な活動をすべく全員で確認をして会議を終了いたしました。



### (4) フォーラム後記 - 実行委員会事務局より

今回のフォーラムには、13 団体、22 名の方に実行委員として登録頂き、実行委員会を 7 月 3 日の第 1 回から 11 月 14 日の第 9 回迄開催、延べ 140 名の方々に夜遅くまでミーティングに参加して頂きました。深く感謝いたします。又、千葉県と八千代市の後援もあり特に八千代市からは市長を始め 13 名が出席され行政の関心の深さが伺われました。(田邊)



### ◆第3回花輪川フェスタ in 高秀牧場を開催

10月28日(土)・29日(日)、第3回花輪川フェスタ in 高秀牧場を開催しました。28日は炭焼きをイベントの中心に、午前中は花輪川の花壇に花の苗を植えました。子どもネット八千代から小学生8名を含め13名が参加され総勢20名でした。

炭焼きは子供たちが竹入れから、火起こし、火の調整まで行い煙まみれの体験でした。

29日は35名が参加、炭の釜出し・草履づくり・高秀牧場見学・桑納川のゴミ拾い、バーベキュー・豚汁・そば打ちなど盛り沢山のメニューでした。

草履作りではお母さんの手を借りながらの作業で親子のふれあいが出来、また、高秀牧場では牛に餌をやったり牛のベロ、鼻を触ったり初めての体験に子供たちは楽しそうでした。

桑納川の散歩とゴミ拾いをした後の昼食はバーベキューの肉がアツという間になくなってしまい、そば打ち体験も子供たち全員に行き届かなかったほどでした。



大人も子供も楽しい一日でした。(金室)

### ◆サポートセンター祭り報告

第3回サポートセンター祭りが11月3日(金)村上のフルル広場で開催され、我がグループも多数の仲間に参加しました。

今回は、最近試作を重ねて完成させた太丸竹の竹加工品<花器>を主に展示・販売しました。

竹炭の加工は繊細で難しい工程が必要ですが完成品は花活け飾りとして非常に人気があり沢山の方に購入して頂けました。



周りの出展グループもそれぞれ工夫された品物が多く並べられ賑わいを見せました。

今年は児童、学生など若い人たちが多く見受けられました。次回は、このような若い人達がより関心を深めたり、また、一緒に遊べるような工夫を凝らしたいと思います。(八木下)

### 食育の推進シリーズ (第2回)

今回は、やちよ食育ネットが大切にしていることと活動内容を紹介します。

やちよ食育ネットでは、食を通して、子ども達に次の4つのことを身につけてほしいと考えています。「食べ物を大切に作る気持ち(心)を身につけてほしい」「本もの(自分の身体に良いもの)を見分ける力を身につけてほしい」「食事を通じて他者(家族や友人)との人間関係を深めてほしい」「家庭の味や地域の食文化を大切に作る気持ちを身につけてほしい」そして、これらのことを身につけてもらうために、以下の3つの活動を行っています。

保育園・幼稚園・小中学校・社会教育を通じて、子どもや保護者を対象とした食教育活動の企画推進。

八千代産の新鮮な旬の食材を給食や食の流通を通じて、子どもをはじめ市民に提供するための地産地消のしくみづくり。

広報紙等を通じて、食育に関する啓発活動や理解者・協力者のネットワーク化の推進。  
次号からはこれらの3つの活動の最近の取組を紹介していきます。(寒川)

#### [編集後記]

かわら版第3号は「新年号」です。当初、年3回の発行を予定していましたが出来るだけタイムリーな内容にしたいこと、そして何よりも次号を期待してくださる方が多いことを知り年4回発行に致しました。発行回数だけでなく内容も少しずつでも充実していきたいものです。(I,S)

発行責任者 加藤 賢三

事務局&問合せ 小原 翔

☎ : 047-450-4663

メールアドレス :

o-syou@muc.biglobe.ne.jp